

文学研究科

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

日本文化専攻

【修士課程】

文学研究科日本文化専攻修士課程では、愛知大学大学院学則に定められた修了に必要な 32 単位を修得し、かつ修士論文を作成提出したうえで、修士の学位を授与します。修士論文の内容は、書き直しを含めた上で、査読のある専門誌に掲載されることが期待できる内容であることを必要とします。また修士論文提出後に主査・副査による論文審査と口述試問による審査を行います。

上記以外に、修士課程にある学生自身の知的探求心に基づく主体的な研究実践が望まれます。以下は、それに即した学位授与方針となります。

- (1) 日本文化に関する幅広い視野と見識を獲得し、資料批判能力や実証的な論証の技術を身につけることを通して、日本文化の諸事象に対して独自の判断・評価を行い得る人材であること。
- (2) 日本文化に関する専門的な知識と資料の読解力を有し、その能力を社会に還元できる人材であること。

【博士後期課程】

文学研究科日本文化専攻博士後期課程では、愛知大学大学院学則に定められた専修科目 4 単位以上と研究演習 4 単位を修得し、3 年以上在籍した上で、指導教授による論文作成の研究指導を受けた者は、課程博士論文を提出できます。課程博士論文の提出後、口述試問を含む審査委員会による厳密な審査を経て、課程博士の学位を授与します。課程博士論文は、査読のある専門誌に掲載された論文 2 本を含む、数本からなる専門論文で構成されるか、それに准ずる内容であることを必要とします。ただし、課程博士号は博士後期入学後 6 年以内であれば取得できます。

上記以外に、博士後期課程にある学生自身の知的探求心に基づく主体的な研究実践が望まれます。以下は、それに即した学位授与方針となります。

- (1) 日本文化に精通し、高度な専門的知識と幅広い教養を駆使して、専門分野の研究を独自の視点から推進、発展させ得る能力を有すること。
- (2) 日本文化に関する専門的な知識と教養を有し、その培った能力を、教育・研究分野における専門的な職業人として社会に還元し得る人材であること。

地域社会システム専攻

【修士課程】

文学研究科地域社会システム専攻修士課程では、愛知大学大学院学則及び「履修要項」の定めにより、基本的には2年以上在学し、32単位修得することが必要です。この内、地域システム研究方法論は必修科目4単位が必要であり、その他の選択科目は院生の履修目的と計画により選択履修します。本専攻では専修科目と指導教授制をとっており、演習のある専修科目のうち一授業科目（講義4単位、演習8単位）を選定し専修科目とし、専修科目を担当する教授を「指導教授」として、授業科目の選択や研究一般についての指導を受けるとともに、修士論文の作成について直接的な指導を受けます。

修士論文の内容は、以下の能力を修得していることを口述試験によって審査し、修士の学位を授与します。

- (1) 地域社会の構造と変動過程に関する広い視野と見識を持ち、多角的な視点から地域社会の諸問題を考察できる能力。
- (2) 地域社会の構造と変動過程に関する広い視野と見識を活用し、地域社会に貢献できる能力。
- (3) 地域社会の構造と変動過程に関する広い視野と見識を生かして、高度な専門性を必要とする職業に就ける能力。

【博士後期課程】

文学研究科地域社会システム専攻博士後期課程では、愛知大学大学院学則及び履修規程の定めにより、専修科目4単位以上と指導教授の研究演習4単位を修得しなければなりません。

なお、博士論文の審査については別に審査基準が設けられていますが、課程博士は博士課程入学後6年以内であれば取得できます。

博士論文の内容は、以下の能力を修得していることを口述試験によって審査し、博士の学位を授与します。

- (1) 地域社会の多様な分野を複合的に考察し、独自の視点から研究できる能力。
- (2) 地域社会の諸問題に精通し、高度な専門性と客観的な視点から比較検討できる能力。
- (3) 地域社会の諸問題に精通し、高度な専門性を必要とする職業に就ける能力。

欧米文化専攻

【修士課程】

文学研究科欧米文化専攻修士課程では、愛知大学大学院学則に定められた各授業科目に割り当てられた単位数を合計 32 単位以上修得しなければなりません。研究方法論 4 単位、専修科目 12 単位（講義 4 単位、演習 8 単位）、その他講義科目から 4 科目 16 単位以上を修得することになっています。修士論文を書くに当たっては、1 年次の 10 月に外国語認定試験の受験願いを提出し、それに合格した者だけに、修士論文執筆の資格が認められます。修士論文は英語と日本語のどちらで書いてもよいが、複数の審査員による論文審査と口述試問の厳格な審査を経なければなりません。

上記以外に、学生各自の物事に対する探求心と知的好奇心を以て自主的な研究に励まなければなりません。以下はそれに即した学位授与方針です。

- (1) 欧米文化に関する幅広い視野と識見を持ち、物事を主体的に判断する能力を持つこと。
- (2) 欧米文化に関する知識と語学力とを活用し、専門的な職業人として社会に貢献できる人材たること。
- (3) 欧米文化研究の深化と同時に、自主的に日本文化に対する造詣をも深くし、深く幅広い欧米文化の知識をもとに、日本文化の発展と向上に資する人材となる基礎能力を有すること。
- (4) 欧米文化の研究を通して欧米人を深く理解し、平和に貢献できる見識を持っていること。

【博士後期課程】

文学研究科欧米文化専攻博士後期課程では、愛知大学大学院学則に定められた通り、指導教授に博士論文作成の研究指導を受け、授業科目の中から専修科目を 4 単位以上を修得し、指導教授の研究演習 4 単位を修得しなければなりません。さらに各自学生は専門分野の研究のみならず、関連分野にも目を向けて幅広い知識と視野を体得し、専門分野の研究を客観的立場から研鑽できるように努めなければなりません。

博士後期課程に 3 年以上在学し、この所定の単位を修得し必要な研究指導を受けた者は、博士の学位論文を提出できます。審査委員会は該当する科目又は関連科目を担当する教授 3 名以上からなり、論文審査、最終試験、並びに学力の確認を厳正に行ないます。以下は上記に即した学位授与方針です。

- (1) 欧米文化に精通し、高度な専門的知識を駆使して、独自の視点から専門分野の研究を推進する能力を有すること。
- (2) 日本の文化と歴史にも通暁し、欧米文化を客観的な立場から比較考察できる能力を有すること。
- (3) 欧米文化の研究が自ずと日本文化の発展に寄与し得るだけの質と客観性を持つこと。